

健康促進部

『性講話』を実施しました

11月13日(木)、井口クリニック 副院長 井口純子先生をお招きし、『「知る、えらぶ、自分を生きる」—SRHRとWell-being』と題し、ご講演をいただきました。

実際の数値に基づく豊富な資料をご提示いただき、大変ロジカルな講話でした。SRHR(性と生殖に関する健康と権利)に基づき、60分の短い時間で目の前の高校生に知っておいて欲しい内容が網羅されていました。医療面や道徳面を強調されずにお話しされ、幅広く生徒のところに届きました。

講演後、講師の井口先生より、『自分に合ったギアを選んで、アクセルとブレーキをうまく使いこなして豊かな人間関係を築いてほしい。』『人とつながることで自らが充実した幸せな人生を送ると同時に、他者の多様性を認める「社会をけん引する立場」になってほしい。』との追加のメッセージをいただいています。



生徒の感想には、「「性」は恥ずかしいものでも特別なものでもなく、人として大切に考えるべきテーマだと感じた。」「SRHRは、自分を尊重し他者も大切にする生き方につながる考え方だとわかった。」との記載が多くあり、また、卵子や精子の数の減少に驚く様子や、LGBTQについての記載も多くありました。

少子化や男性の育児休暇取得など社会につながる問題と認識したり、各教科での学びと紐づけて述べている生徒も多々おり、大垣北高生らしさを感じました。



<生徒の感想より>

・改めて「自分のからだや人生について正しく知り、自分で選ぶこと」の大切さを感じました。SRHRは性教育や避妊だけでなく、自分を尊重し、他者も大切に生きる生き方につながる考え方だとわかりました。特に印象に残ったのは、「正しい知識を持つことが自由につながる」という言葉です。性や心、体のことを正しく理解していないと、偏見や間違った情報に惑わされたり、他人に流されたりしてしまいます。しかし、正しい知識を持つことで、自分の体を守り、自分の人生を自分で決める力がつくのだと思いました。今回の講話を通して、性や健康についてもっとオープンに話し合える社会が必要だと感じました。

・手に触るだけでも同意がいるということは初めて知りました。少女漫画などでは普通に手を繋いでいる場面がとても多いので意外でした。漫画などで知ることが多いものもあると思うので、雰囲気を変になるかも知れないけれど責任のために、同意をとるシーンがある漫画が増えたら良いなと考えました。

・SRHRのことや、月経随伴症状による経済損失が6000億円もあることなどは知らず驚きました。男性が育休を取得するメリット、2024年の出生数が1974年の出生数の1/3であることなど、知らなかった事実を知ることができ、自らの学びとなる素晴らしい時間でした。特に私が印象に残っている内容は少子化問題につながる性に関する内容です。学校の授業では少子化は晩婚化や合計特殊出生率の低下が主な要因だと学習しましたが、生物学の観点からの事実を今回知ることによって、精子の数の減少や元気さがなくなっているのも要因のひとつとしてあるということを知りました。また、「インターネットの普及による性行動の減少、積極性が失われている」という、将来どころではなく、現在の自分にも関わりのある内容が要因になるのを知り、他人事ではないと感じました。自らの小さいように思えるような選択が社会に影響を与える年齢になってきたので、慎重に、また、相手に影響を与えるときは相手の同意を得るなど思いやりを持って生きていきたいです。

・講話の中で一番驚かされたことは1970年代から現在にかけて世界全体の男性の1ml中の精子の数が60%近く減少しているということです。生活習慣や環境ホルモン、高温環境などが影響するということで、今の便利で過ごしやすい生活も考えものだなと感じました。将来自身が結婚し子供を作るかどうかは分からないけれども選択肢として残しておけるように生活習慣を改めようと思いました。

・今年の講話は、性的なことが関与している社会問題について（少子化、性的同意・性的暴力、LGBTQ）のお話で、性的なことに関する全体的なお話が聞けて良かったです。「性暴力被害にあったとき、どうすればよいか」まで教えてくださったので、とても良かったです。

・昨今話題の中心にあるLGBTQについてですが、今の世の中では、性の種類は2種類ではなく一人一人のカタチがあると思っているので、もし友達が勇気を出してカミングアウトしてくれたら決してその性の形を否定する事がないように再度心がけたいと思いました。